

科目名 Course Name	教育心理学 Educational Psychology			ナンバリング No.	K2-002		
年次	1年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	秋山 真奈美						
連絡先(質問等)	講義棟3階研究室か、C-Learning で対応。オフィスアワーは火・土・授業・会議時間を除くものとする。						
必修/選択	選択(幼稚園教諭二種教職課程必修)						
関連 DP	DP2, DP5						
授業の概要と 到達目標	<p>本講義では、保育者を志す学生が、幼児の発達や学習能力を踏まえた支援ができることを目指し、教育を行う場合に心得ておくべき「学習」「知能」やその「評価」法、そして行動の原動力となる「欲求」について学んでいく。また、発達の遅れがある事例や特別な支援を必要とする事例への対応に関する考え方や具体的手法を学ぶ。</p> <p>従って到達目標としては、</p> <p>①幼児独特の心身の発達特徴を踏まえた上で、“ちょうどよい”、“幼児の主体性を尊重した”学習支援をするための指導の基礎となる考え方を理解し、説明できるようになる。</p> <p>②人間行動の心理的メカニズムの過程を説明する各種学習理論を学び、実際場面に汎用できるようになる。</p> <p>③教育効果を見据えた働きかけについて、客観的な立案や評価ができるようにする。</p>						
授業の方法	<p>視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて実施する。アクティヴ・ラーニングを行う側・仕掛ける側両方の知見を得るためのディスカッションを含む。単元の終了ごとに小テストを行う。</p> <p>好ましいレポートや論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。</p>						
学習成果	L01						
	L02	アクティヴ・ラーニングを主客両方の立場から実践できる。					
	L03	<p>①発達と学習および行動の心理学的メカニズムを説明でき、対象(主に幼児・児童)の学習支援に応用できる。</p> <p>②対象の状態に応じた教育効果を客観的に見据えた対応を想定し、記述できる。</p>					
	L04						
課題に対する フィードバック	小テストは実施翌週に返却する。学生はその問題をヒントに期末考査の論述試験対策を行う。自発的学習者には随時模擬論述の添削を行う(ただし第15週まで)。						
教科書/ 参考図書	教科書:『実践につながる教育心理学』櫻井茂男[監](北樹出版)。参考書・資料は各回授業にて随時紹介する。						
履修上の留意点 やルール等	講義はもとより、ディスカッションや教育実験に対して主体的且つ真剣に取り組むことを期待する。私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。教職を志す者として、真剣に受講すること。事前・事後学習時間の目安は各回180分相当とする。						
担当教員の実務 経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。ディスカッション時の積極的な協議姿勢、発表時の質問などは高く評価する。		20		
レポート／作品	授業中に視聴した映像資料の感想文を、翌週提出してもらう。感想文とはいえ、教育者としての視点および行動療法的観点からの考察を重視する。		20		
発表	グループディスカッションの結果を報告してもらう際には、内容及びプレゼンテーションの巧緻を評価する。聴講者を惹きつける相互作用的なプレゼンテーションが理想的である。		10		
小テスト	単元終了毎に、その翌週の授業冒頭で実施する。日常の努力点として勘案する。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。			10	
試験	学期末に論述試験を実施。授業の目標が反映された、設問への妥当な回答がなされていることを評価する。このため具体的な事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。			40	
その他					
合 計			50	50	

回数		授業計画
1	授業内容	オリエンテーション:授業の方法と計画の説明 保育と教育心理学 保育者に求められること 幼児の発達と学習課題
	事前・事後学習	事前学習はとりあえず不要。事後学習として、現代社会における保育の現状をまとめ、小テストに備える。
2	授業内容	学ぶとは:学習の基礎理念 条件づけ 基本的な生活習慣をシェイピングする
	事前・事後学習	実習経験を基に、子どもがつまづきやすい生活習慣行動に対しシェイピング法を考案する。
3	授業内容	賞罰の功罪:学習過程中的賞罰の功罪について(※ディスカッション→発表は次回)
	事前・事後学習	学友と共に授業内で行ったディスカッションの内容を、発表に足る形態に組み立てる。返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
4	授業内容	賞罰の功罪:前回ディスカッションの内容を発表する。 学習の方法・学習指導法の現在:幼児期における概念学習、運動学習、言語学習
	事前・事後学習	他グループからもたらされた新しい発見を、自分たちの考察に組み入れ、まとめ直す。
5	授業内容	学習の方法・学習指導法の現在:幼児期におけるプログラム学習、発見学習、観察学習、グループ学習、オープンクラス
	事前・事後学習	授業内容をまとめ、小テストに備える。
6	授業内容	学習の方法・学習指導法の現在:発達の最近接領域と学習支援 状況から学ぶ アクティヴ・ラーニング
	事前・事後学習	保育場面における状況学習の例を学習者の立場から列挙する。
7	授業内容	学習の方法・学習指導法の現在:早期教育とは 幼児期におけるコンピュータ教育の功罪
	事前・事後学習	返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。早期教育・電子教育の現状について独自に調べ上げ、ノートにまとめておく。
8	授業内容	学習理論の心理学的応用:行動療法の基礎理論と学習支援・適応援助への応用
	事前・事後学習	行動療法をまとめ、小テストに備える。
9	授業内容	学習と教育:行動療法の障害児教育への応用 映像資料視聴(→※次週レポート提出)
	事前・事後学習	ヘレン・ケラーとアニー・サリバンの業績について事前に調べておく。映像資料から派生した疑問を調べ上げ、レポートを作成する。返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。
10	授業内容	学習の動機づけ:欲求と動機づけ 学ぶ心を育てるために 学習された無力感 適性処遇交互作用
	事前・事後学習	返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。
11	授業内容	学ぶ意欲と耐性:幼児の成長欲求の発達 欲求不満耐性を育てるには
	事前・事後学習	返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。
12	授業内容	考えることと創造すること:幼児の思考の在り方 知能とは 知能の発達とその評価 創造性と人間性の発達
	事前・事後学習	返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。
13	授業内容	記憶:記憶のしくみと役割 記憶の発達 幼児期健忘
	事前・事後学習	返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。
14	授業内容	集団からの学びと集団の学び 協同学習 主体的・対話的で深い学び
	事前・事後学習	返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。
15	授業内容	学習評価 何のために評価するのか アセスメントと発達支援 関わりの中からの理解
	事前・事後学習	返却された全ての小テストを用いて、期末試験の対策を行う。